

「マスタース・トーナメント」で日本人初制覇！

文責 学校長



～松山英樹選手の快挙に涙・涙！～

先週の月曜日確認(4/12)の早朝の朗報に日本中が湧きました。プロゴルファーの松山英樹選手が「マスタース・トーナメント」ゴルフ大会で日本人として初の優勝(メジャー大会での日本人初の優勝)に輝きました。先々週の木曜日から米国で開催されていた今大会で松山英樹選手はオーガスタのムービングデー(3日目)に「65」をマークし、通算11アンダーの単独首位に浮上しました。迎えた最終日、13番ホールでは林に入るところが幸運にも木にあたったボールがラフに戻ってきたり、15番ホールで池に落ちる(痛恨の池ポチャ)もボギーで切り抜けるなど優勝のプレッシャーと闘いながら「73」(1オーバー)のスコアで周り、2位と1打差の通算10アンダーで悲願の初優勝を果たしました。遂に日本人が夢のマスタースを制覇するという、その4日間の戦いぶりに釘付けになりました。ちなみに優勝者の松山選手は来年度の大会で歴代優勝者を招いてのパーティーのホストとして料理を提供するという役割も与えられるそうです。来年どんなメニューでもてなすのかも楽しみとなりました。

1 部活動紹介を行いました。～部活に入ろう！～

先週の火曜日(13日)の5・6時間目に新入生を対象に「部活動紹介」を行いました。各部の代表による紹介・パフォーマンスを行い、それぞれの部が新入生の加入を促すべく各部の活動内容や良さをアピールしました。新入生諸君、高校生活を充実させるためにお気に入りの部を見つけぜひ入部しましょう。



2 今週の名言・・・HONDAの創業者・本田宗一郎さんの言葉です。

人生は見たり、聞いたり、試したりの3つの知恵でまともまっているが、多くの人は見たり聞いたりばかりで一番重要な「試したり」をほとんどしない。ありふれたことだが、失敗と成功は裏腹になっている。みんな失敗を恐れるから、成功のチャンスも少ない。

【解説】「見たり」「聞いたり」した経験を、積極的に「試す」こと、自分の経験を生かしてチャレンジすること、仮に失敗してもその失敗を成功への糧とすることの大切さを表した言葉です。今やバイク・自動車のHONDAから、「水素で走る」燃料電池自動車「クラリティ」、ビジネスジェット「ホンダジェット」、二足歩行ロボット「ASIMO」まで、世界の先端技術産業をリードするトップ企業となった本田技研工業の創業者・本多宗一郎氏の「新しいことに挑戦し続けた」人生哲学そのものを表しています。あなたは最近、どんなことを見たり、聞いたりしましたか。そして実際に試してみましたか。試していないものの中には、あなたの未来を大きく変えるものがあるかもしれません。失敗を恐れず、たくさんの「見たり」「聞いたり」した経験をもとに、どんどんチャレンジ(試)してみることです。「試す」ためには、まず興味を持つことが大切です。チャレンジしたいことに対して、「自分には無理」と自分で自分の許容範囲を狭めていませんか。自分の可能性を自分で抑えずに、失敗を恐れずに様々なことにチャレンジしてほしいものです。それがあなたの未来を大きく変えます。



＜クラリティ FUEL CELL＞7,124,000 円



◆「水素燃料電池自動車(FCV)」とは?・・・ホンダの「クラリティ」・トヨタの「ミライ」〈HondaJet〉 〈ASIMO〉として販売。高圧タンクに充填された水素と空気中の酸素を反応させて発電しながら走るモーター自動車。CO2を一切出さず水しか排出せず、環境に優しい究極のエコカーと言われていました。一回の水素充填で750kmの走行が可能。県庁の「新エネルギー産業振興課」で2年間研修していた時にこの車と出会い、県庁の公用車としてリース導入し、毎週末、九大の伊都キャンパスにある水素ステーションまで運転して水素を充填していたのも今では良い思い出となっています。現在は佐賀市のどんだんだんだの森の入り口に「イワタニ」の水素ステーションができています。

3 今週の話事成語・・・「下学して上達す」【問題】英語で表現すると?

手近な所から学んでいって、次第に高遠な学理を極めること。(出典:「論語・憲問」より)

【由来】『論語』の中に出てくる孔子の言葉「天を恨みず、人を尤めず、下学して上達す。我を知る者は天か。」に由来します。「不運だったと天をうらむこともなく、納得いかない人ととがめることもなく、ただ身近なことから学ぶことによって高みを目指す」という意味です。受験勉強においても目の前にある「日々の課題」プリントや基礎的な問題集などから確実に取り組むことで次第に難問や入試問題が解けるレベルに上達していくのだということではないでしょうか。武雄高校での日々の授業にしっかりと取り組み、課せられた教材に真摯に向き合うことが大切です。

4 どこがおかしい日本語(その3)・・・どこが間違いかわかりますか?

- ①二の舞を踏む ②口先三寸 ③怒り心頭に達する ④汚名挽回 ⑤熱にうなされる

5 今週の一冊・・・西條奈加の『心淋し川』（集英社）です。

不美人な妻ばかりを困う六兵衛。その一人、先行きに不安を覚えていたりきは、六兵衛が持ち込んだ張形に、悪戯心から小刀で仏像を彫りだして…（「閨仏」）。飯屋を営む与吾蔵は、根津権現で小さな女の子の唄を耳にする。それは、かつて手酷く捨てた女が口にしていた珍しい唄だった。もしや己の子ではと声をかけるが—（「はじめましょ」）他、全六編。生きる喜びと哀しみが織りなす、渾身の時代小説。

（参考：本書裏表紙説明より）

【解説】最新の第164回の直木賞に輝いた作品です。図書館に入っています。人情溢れる江戸の下町・千駄木町の通称「心淋し川（うらさびしがわ）」沿いで懸命に生きる人々のささやかな喜びと深い悲しみが胸にじんと沁みる感動作品です。6編の連作で一作品40ページほどのストーリーとなっており、読みやすく最終話で前5話を踏まえた構成も見事です。

【作者・西條奈加について】1964年北海道生まれ。2005年『金春屋ゴメス』で日本ファンタジーノベル大賞を受賞しデビュー。2012年『涅槃の雪』で中山義秀文学賞、2015年『まるまるの繭』で吉川英治文学新人賞を受賞。時代小説から現代小説まで幅広く手がける（参考：本書巻末の著者紹介文より）

6 世界遺産を巡る(日本編)・・・第3回は屋久島（世界遺産登録年：1993年）

鹿児島県佐多岬の南南西約60kmに浮かぶ円形の島。島の中央には九州最高峰の宮之浦岳をはじめ、1,800mを超す山々が連なり、すばらしい山岳美は「洋上アルプス」と形容されます。植物が育ちにくい花崗岩の島に、驚くほど豊かな森が広がっているのは、これらの山々に海から上る水蒸気がぶつかって多量の雨を降らせるため。屋久島がユニークなのは、標高差と黒潮の影響で、亜熱帯植物から高山植物まで約1,500種、日本の植物種の実に7割以上が1つの島に存在しているという点。さらに固有種が約40種、屋久島を南限・北限とする植物がそれぞれ約140種・約20種もあり、杉の南限もここ。他の地域に比べ桁違いに杉の寿命が長く、標高700～1,700mには樹齢1000年を超える屋久杉が多く見られます。その代表が屋久島のシンボル、**縄文杉**。推定樹齢7200年とも2500年ともいわれ、幹周約16.4m、樹高約25.3mを誇る巨樹中の巨樹。幹の造形が縄文式土器の一種、炎を象った火焰土器に似ていることからこの名が付いたともいわれています。縄文杉を見るには**片道5～6時間の登山**は覚悟。途中、**三代杉、翁杉、大王杉、夫婦杉**と、有名な屋久杉が次々と目の前に。ウィルソン株は豊臣秀吉が京都の方向寺建立のために切らせたもので、もし順調に生育していたら、縄文杉を超えるばかりか、おそらく日本最大の樹木であったろうといわれています。急峻な山道を登った末によりやく到達した縄文杉を前に、感極まって涙を流す人も。足に自信のない方は、車でも行ける紀元杉へ。縄文杉に劣らぬ威風堂々とした老杉です。また、原生林の中での森林浴を手軽に楽しむなら、**白谷雲水峡**や**ヤクスギランド**がおすすめです。（参考：阪急交通社「日本の世界遺産一覧」より）



7 街角グルメを訪ねて・・・第3回は唐津市のパン屋「石窯パン工房LULU」です。

第1回「クリーブラッツ」、第2回「BAKERY M's」に続いて今回もお気に入りパン屋の紹介です。唐津に出かけた時に立ち寄る「石窯パン工房LULU」もお勧めの一店です。スペインから取り寄せた石窯で焼かれており、「塩パン」や「オーロラドッグ」がお気に入りです。店内にコーヒーマシンもおいてあり、セルフサービスで無料で提供されています。武雄では移転した武雄市役所の1階にオープンした「ベーカリーシャルマン」に専ら行くことが多くなりました。「おやきパン」や「ごぼうパン」がお勧めです。佐賀市内では、「1954kusukusu(江頭製パン)」がお勧めです。日本にもすっかりパン文化が根付きましたが、昭和の時代はパンといえば給食のコッペパンや食パンが定番でした。今ではおいしいパンが増え、ついつい4・5個食べてしまいがちですが、パンって結構高カロリーなのでほどほどに。（唐津市中原2855-3）

8 保護者の皆様へ・・・家庭内クラスターが増えています。

大阪府を筆頭に感染拡大の第4波と思われる状況がひたひたと近づいて来ています。首都圏・関西圏と同様に隣県福岡県でも感染者が増えてきており、佐賀県内でも感染者が増加傾向にあります。特に**会食に同席**したことから感染し、ウイルスを家庭に持ち込んだために家庭内でクラスター感染となる例が増えています。家庭内で陽性者が出た場合は濃厚接触者と判断され、生徒は**2週間の出席停止措置**となりますので、くれぐれも**飲酒を伴う会食はお控えください**。

【表面の解答】◇ beginning one's studies with something familiar and gradually increasing the depth of learning

【正解】①二の足を踏む②舌先三寸③怒り心頭に発する④名誉挽回⑤熱にうかされる

①「二の舞」は「二の舞を演じる」「二の舞となる」と使い、前の人と同じ失敗を繰り返すことを表す。「二の～を踏む」であれば、「二の足を踏む」が正しい。「二の足を踏む」は、失敗を恐れてためらうことを表します。②「口先」は「三寸（約9cm）」もない。「舌先」が正しい。③「心頭」の「頭」は「そば・あたり」という意味合いで使われ、「心頭」で「心のあたり」となるのです。つまり「怒り心頭」とは、心の中から沸き起こる抑えられないほどの激しい怒りという意味になります。決して「怒り」が「頭」に「達する」という意味ではありません。④「汚名」は「汚名返上」と使い、「挽回」するのは「名誉」で「名誉挽回」と使うのが正しい。この二つを混同して「汚名挽回」と間違っって使う人が多い。正しく使い分けよう。⑤「熱」と苦しそうな声をあげて「うなされる」イメージで「熱にうなされる」と誤って使っている人が大半のようだが、正しくは「熱にうかされる」が正しい。これは、高熱のために意識が不確かになることを意味する言葉で、恐ろしい夢などを見て「うなされる」こととは違う症状のことです。